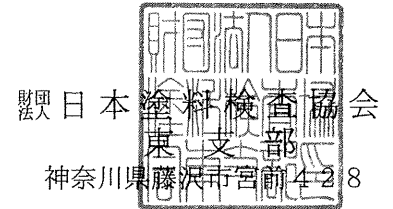




試験結果報告書

株式会社 都市ネット 殿



依頼No. 061911

報告日: 平成19年 6月 1日

支部長	担当者

品名	特殊断熱コーティング材 セラミックコート SE40		試験受付日	平成19年 2月20日
			試験採取日	平成 一 年 一 月 一 日
			試験採取場所	提 出
製造者	—		試験数量	1
試験項目	結 果		試 験 方 法	
粘度 mPa·s	2.6 × 10 ⁴		JIS K 7117-1:1999 プラスチックー液状, 乳濁状又は分散状の樹脂ーブルックフィールド形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法の附属書1(参考) SB形粘度計による粘度の測定方法に準ずる。 スピンドル番号: SB4号 スピンドル回転数: 6min ⁻¹ 試験温度: 20 ± 0.2℃	
乾燥時間	23℃	20分	JIS K 5600-1-1:1999 塗料一般試験方法ー第1節: 試験一般(条件及び方法) 4.3 乾燥時間 4.3.4 操作 a) 常温乾燥による。 塗付け量: 350g/m ² 塗装方法: はけ塗り 評価: a) 指触乾燥	
	5℃	20分		
	40℃	20分		
燃焼試験 (酸素指数)	1.9		引用文献JIS K 7201:1995 酸素指数法による高分子材料の燃焼試験方法による。	
引張強さ N/mm ²	0.8		JIS K 6251:2004 加硫及び熱可塑性ゴムー引張特性の求め方 7.7.2 引張強さ, 切断時引張応力及び切断時伸びを求めるための測定に準ずる。	
伸び率 %	1.0			
耐摩耗性 mg	2.98		JIS K 5665:2002 路面標示用塗料 8.15 耐摩耗性 8.15.1 1種及び2種の場合に準ずる。	
付着強さ N/mm ²	モルタル板	1.0	JIS A 6909:2003 建築用仕上塗材 7.9 付着強さ試験 7.9.2 試験手順 a) 標準状態の試験手順に準じ、付着強さを求めた。	
	鋼板	1.0		
	アルミ板	0.4		

・転載又は一部分を複製する場合は、事前に当協会の承諾を受けて下さい。

依頼No. 061911

試験項目	結果	試験方法
透湿度 $g/m^2 \cdot 24h$	8.8	JIS Z 0208:1976 防湿包装材料の透湿度試験方法に準ずる。 温湿度条件 条件 A 温度 $25 \pm 0.5^\circ C$ 相対湿度 $90 \pm 2\%$
耐屈曲性	塗膜の割れを認めない。	JIS K 5600-5-1:1999 塗料一般試験方法—第5部:塗膜の機械的性質—第1節:耐屈曲性(円筒形マンドレル法) 6.2.1 タイプ1の試験装置による $23^\circ C \pm 2^\circ C$ での試験に準ずる。 マンドレルの直径:8mm
耐衝撃性	衝撃による変形で割れ・はがれができない。	JIS K 5600-5-3:1999 塗料一般試験方法—第5部:塗膜の機械的性質—第3節:耐おもり落下性 6. デュポン式による。 おもりの高さ:20cm おもりの質量:500g 撃ち型及び受け台の寸法:半径6.35mm
耐水性	さび、割れ、膨れ及びはがれを認めない。	JIS K 5600-6-1:1999 塗料一般試験方法—第6部:塗膜の化学的性質—第1節:耐液体性(一般的方法) 7. 方法1(浸せき法)に準ずる。 浸せき液:脱イオン水 浸せき時間:30日間
熱サイクル試験	さび、割れ、膨れ及びはがれを認めない。	引用文献JIS K 5400:1990 塗料試験方法 9.3 耐冷熱繰返し性に準ずる。 サイクル試験条件 $-20^\circ C$, 2時間, $60^\circ C$, 2時間 繰返し回数:2サイクル
比熱容量 $J/g \cdot ^\circ C$	$20^\circ C$: 1.47 $100^\circ C$: 1.79	JIS K 7123:1987 プラスチックの比熱容量測定方法に準ずる。
動的粘弾性	図-7	厚さ2mmになるように調整した試料について動的粘弾性測定を行った。 使用機器:Rheometric Scientific社製 ARES 試験温度: $23^\circ C$

試験片の作製方法

表-1の仕様により塗装し $23^\circ C$ 、50%RHで7日間養生したものを試験片とした。

表-1 仕様1

品名	塗付け量	塗装方法	塗装間隔
特殊断熱コーティング材 セラミックコート SE40	$350g/m^2$	はけ	2時間
			2時間
			—

依頼No. 061911

試験項目		結果			試験方法
					ISO5660 Part 1 に準ずる。
発熱性試験					
試験	基材	No.1~3: 石こうボード No.4~6: 鋼板			—
	試験体	試験体面積 (m ²)	0.008840		
加熱条件	輻射量 (kW/m ²)	50			—
	加熱時間 (分)	20			不燃材料 (20分) 準不燃材料 (10分) 難燃材料 (5分)
試験結果	試験体No. 1~3	別図-1	別図-2	別図-3	材料に要求される防火性能の判定基準
	(1) 燃焼しないこと 総発熱量 (MJ/m ²) 200kW/m ² を越える時間(秒)	6.3 0	7.6 0	5.9 0	総発熱量が8MJ/m ² を越えない。 200kW/m ² を越える発熱速度が10秒を越えて継続しない。
	(2) 防火上有害な変形・溶融・き裂を生じないこと	き裂、貫通孔を認める。			試験体裏面に達するき裂、貫通孔等を生じない。
	試験体No. 4~6	別図-4	別図-5	別図-6	材料に要求される防火性能の判定基準
結果	(3) 燃焼しないこと 総発熱量 (MJ/m ²) 200kW/m ² を越える時間(秒)	4.6 0	4.7 0	4.7 0	総発熱量が8MJ/m ² を越えない。 200kW/m ² を越える発熱速度が10秒を越えて継続しない。
	(4) 防火上有害な変形・溶融・き裂を生じないこと	き裂、貫通孔等を生じない。			試験体裏面に達するき裂、貫通孔等を生じない。
<p>備考</p> <p>試験装置：株式会社 東洋精機製作所製 コーンカロリメータⅢ 形式 C3</p> <p>試験体形状：No.1 13.0mm (厚み) No.2 13.0mm No.3 13.0mm No.4 1.0mm No.5 1.0mm No.6 1.0mm</p> <p style="text-align: center;">以下余白</p>					

圖一7 動的粘彈性測定結果

